

お申し込み期間：2021年5月10日(月) → 6月30日(水)

6月30日(水)までにインターネット(スマートフォンも可)でお申し込みください。
申し込み直後に確認メールが届かなければ、お問い合わせください。
お申し込み後、1週間以内に参加費をお支払いください。

お申し込み先

下記アドレス(右記QRコード)より、申し込みページにアクセスしてください。
(<https://va.apollon.nta.co.jp/gakutoken2021/>)
受付担当者:株式会社日本旅行TiS富山(担当:長谷川・庄司)
富山市明倫町1番230号クラルテ1階(JR富山駅構内)
Email:tistoyama_mice@nta.co.jp
TEL:076-433-1184 FAX:076-433-5250 (営業時間:平日 10:00~18:00)



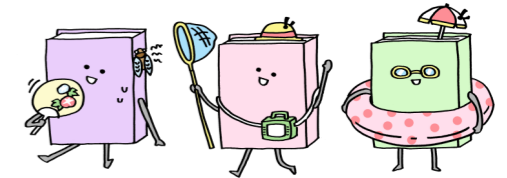
子どもたちの豊かな学びを支える学校図書館

学校図書館問題研究会は、全国の学校図書館に関わる職員や関心のある人たちによる研究団体として1985年に発足し、毎年全国大会を開催しています。

学校図書館は、子どもたちの「読みたい」を「読めた!おもしろい!」という喜びに変えていく場所です。その喜びを力に、子どもたちは「知りたい」気持ちを育みます。学校図書館は、一人ひとりの子どもたちが、じっくり考えられるよう資料・情報を提供し、豊かな学びを支える場です。

この大会では、学校図書館が支える多様で豊かな学びの可能性を丁寧に検証し、実践に活かしていくことを目指します。今回は、富山県での開催を目指して準備をしていましたが、コロナ禍のため対面での開催が叶わず、初めてオンラインで開催します。オンラインであっても今までの大会と変わらずに、熱く、深い議論を交わしましょう。

2021.8.5thu → 7sat
オンライン開催



主催 学校図書館問題研究会 (<http://gakutoken.net/>)

大会日程

	9:00	9:30	12:30	13:00	14:00	17:00
8/5 THU	開室	開室	開会行事 総会	開会行事 総会	講演	講演
8/6 FRI	9:00	9:30	12:30	14:00	17:30	
	開室	実践報告 I・II	昼休憩	分科会	分科会	
8/7 SAT	9:00	9:30	12:00	12:30		
	開室	全体会・総会	閉会 行事	閉会 行事		

①参加費 *全日参加・一部参加 にかかわらず	全国会員	2,500円	大会報告集『がくと』は年会費に含まれています
	支部のみ会員・非会員	3,000円	支部のみ会員・非会員で大会報告集『がくと』をご希望の場合は、別途申し込んでください
	学生	1,000円	
	『がくと』(大会報告集・送料込)	1,000円	
②分科会	先着順に受け付けます。第2希望まで記入してください。申し込み多数の場合は、ご希望に添えないことがあります。 申し込まれた分科会のアクセス先(Zoom IDとパスワード)を、開催日3日前までに、ご登録のメールアドレスにお送りいたします。		
③変更・キャンセル	キャンセル日によって、キャンセル料が発生します。大会HPをご覧ください。*新型コロナウイルス感染症に関わる変更・中止についての対応はHPをご覧ください。		
④大会事務局	松井正英(学校図書館問題研究会オンライン大会事務局) E-mail : gakutoken2021@gmail.com		

オンライン大会開催について

- ・オンライン大会はTV会議システム「Zoom」で開催します。
- ・複数人で一つのデバイスから参加される場合も、お一人ずつ参加の申し込みをお願いします。
- ・1日目、2日目午前、3日目午前のZoom ID・パスワードはそれぞれ、開催日の3日前までに、大会事務局よりご登録のメールアドレスにお送りいたします。時間になりましたら、各自でアクセスしてください。
- ・分科会のZoom ID・パスワードは各担当から、別途、3日前までにご登録のメールアドレスにお送りいたします。時間になりましたら、各自でアクセスしてください。
- ・全体会、講演会、分科会、総会等の資料はクラウド上のフォルダにアップします。フォルダにアクセスするためのアドレス(QRコード)は大会事務局よりご登録のアドレスに大会3日前までにお送りします。各自でアクセスして、必要に応じて資料をダウンロードしてください。
- ・分科会は14:00から開始され最大17:30終了を予定していますが、内容によっては17:30より早く終わることがありますので、あらかじめご了承ください。
- ・各会ともマイクは司会・進行担当者から指示がない限り、ミュートでご参加ください。

学びの構造転換—学校図書館の役割は？

熊本大学教育学部准教授 苫野 一徳 氏

講演

8月5日(木) 14:00-17:00

苫野氏は、熊本市教育委員や、名古屋市など全国の自治体で教育アドバイザーも務める哲学者・教育学者です。苫野氏は、コロナ禍でのICTの進展に伴い、一人ひとりの学びを尊重する「学びの個別化」がさらに重要になると予想されています。そして、「個別化」と子ども同士の学び合いを通して深まる「協同化」や、自分で設定したテーマを探究する「プロジェクト化」の融合を提言されています。この講演では、苫野氏が考える「教育の本質とあり方」に、学校図書館はどう位置づけられ、何を期待されているのかを、具体的な事例をおりまぜながらお話いただきます。『「学校」をつくり直す』(河出書房新社)『どのような教育が「よい」教育か』(教育の力)(講談社)など、多くの著書があります。

お申し込み期間：2021年5月10日(月) → 6月30日(水)

*複数人で一つのデバイスから参加される場合も、お一人ずつ参加の申し込みをお願いします。

I 「いないよりはいた方がいい学校司書」からの脱皮

岡山県津山市立津山西中学校 学校司書 加藤容子さん

図書館は利用されて充実します。学校司書も利用されて成長できます。利用されることにこだわって活動しますが、それが最終目的ではありません。子どもたちが自由に学び、人間として育っていくような活動をつくりたいと腐心しているところです。成果のほどはなおおぼつきませんが、①新年度に全学年におこなう図書館オリエンテーション、②学校図書館を活用した授業についての実践、③学校に図書館があることで、どんな学びが広がるかを考察します。是非、みなさんのご意見もください。

図書館の活動では、利用者を知る、「本」を知る、利用者と利用者が求める「本」とを確実につなぐ、この3点を押さえることを心がけています。それを重ねていくことが、「いないよりはいた方がいい」から脱皮し、「学校司書の助けが必要」に向かう道ではないかと思えます。具体的に3点をどう押さえたかを報告できたらと考えています。

II 埼玉県の司書研修

埼玉県立浦和第一女子高等学校 担当部長兼主任司書 木下通子さん

埼玉県は1960年代から高校図書館に司書の配置が始まり、1975年から県立図書館と一括採用で、司書採用試験が始まりました。1979年には全日制高校への全校配置が実現しましたが2000年から採用試験が中断し、混沌とした時代に入ります。それを打破しようと学校司書の働きと学校図書館の必要性を広く県民のみなさまに訴えた活動が実り、2013年に採用試験が再開。現在は毎年10名以上の人が司書として採用される県となりました。

採用試験再開後は、県立図書館との実践交流も活発になり、高校司書が公立図書館の研修に参加できるようになりました。また、司書の5年経験者共通研修が始まり、その研修も県立図書館と合同で行っています。専門職として採用された埼玉県の司書が、どのような研修を受けていて、その研修にどんな効果があるのか、コロナ禍でどう変わったか、実践報告を通して検証してみたいと思います。

8月
6日
(金)
9:30
|
12:30

8月6日(金) 14:00-17:30(最大) 互いに学びあう8つの分科会 第2希望まで選択してください

1 学校図書館の研修について考えよう

あなたの街では学校図書館関係者に対してどのような公的研修が行われていますか？この分科会では事前に各支部からとったアンケートをもとに、望ましい学校図書館の研修について考えます。学校司書に対して行われる研修だけでなく、先生方に向けての学校図書館研修についても考え、学校図書館運営を充実させるための研修を模索します。現場の学校司書だけでなく公共図書館や教育委員会の担当者の方の参加もお待ちしております。(実践報告IIを受けての分科会です)

(担当:全国委員)

2 学校図書館スタートガイドでお悩み解消

まずはじめに、『学校図書館スタートガイド』をテキストに、業務モデル「サンカクくん」の解説と活用例を紹介します。個々の参加者が抱えている、学校図書館の運営全般の問題を可視化し、グループで問題解決のためのアイデアを出し合しましょう。また神奈川県立学校の学校司書に対しておこなわれている、県主催の研修について報告してもらいます。学校図書館初心者の方はもちろん、仕事の振り返りなどベテランの方にも役に立つ内容です。

(担当:神奈川支部)

3 教科書から学校図書館の「情報リテラシー支援」を考えよう

学校図書館の情報リテラシー支援を考える分科会です。小学校の教科書「国語」(光村図書)の記述を手がかりに、学校図書館と関わりが深い、問いの立て方・資料の探し方・調べ方がどのように扱われているかを参加者と読み解きます。また、図書館は情報活用に関して児童生徒にどのような支援ができるのでしょうか？授業者との連携は？実践事例等もふまえてみましょう。小学校に限らず様々な立場の方の参加をお待ちしています。(定員30名)。

(担当:長野支部)

4 1コマでできる利用者教育

学校図書館を学習に利用するためには、利用者に図書館を使う力が必要です。利用者教育はその力を育てるために行います。本来は小・中・高を通して積み上げていくべきものですが、探究学習が求められている今もなかなか進みません。そこで、特に時間の取りにくい中学・高校のために、図書館が提案する1コマでできるワークを作りました。調べる時の本の読み方、著作権、新聞・年鑑・ネットの活用などの利用者教育について一緒に考えてみませんか。探究学習の初めの一歩が変わるかも。(定員30名)。

(兵庫支部)

5 コロナ禍の学校図書館

コロナ禍による学校での授業形態の見直しやICTの導入は、学校図書館の取組に制約と可能性の両面で影響を及ぼしています。これを奇貨として、私たちはどんな取り組みを行えるでしょうか。青山学院大学の庭井史絵氏、カーリルの吉本龍司氏による報告により、この期間の変化を踏まえた上で、この状況下で学校図書館の可能性をどのように広げられるかを考えます。(定員24名)。

(担当:埼玉支部)

6 子どもと本をつなぐ技いろいろ

子どもが本に手を伸ばさない——そんな状態に悩むあなた、子どもたちを本の世界に誘う様々な「技」を試してみませんか？この分科会では、ベテラン会員によるアニメーションやブックトークなどを実際に体験します。また、参加者も、お勧めの方法やご自身の経験についてぜひ話してください。みんなで「子どもと本をつなぐ技」について理解を深めましょう！

(担当:全国委員)

7 もっと読もうよ！海外文学

世界と日本をつなぐ子どもの本—翻訳物は難しい印象があるのか、小学校でも学年が進むにつれて離れていく子どもたち、それに対してもっと海外文学も読んでほしいと願う私たち。子どもたちをひきつける作品は？届ける方法は？分科会には小中学生におすすめの海外文学作品をお手元にご用意ください。参加者同士で紹介しあいましょう。海外文学を読みたくなるようなコーナー作り、授業活用を含めた届け方、蔵書構築のアイデアを出し合い交流しませんか。(定員30名)。

(担当:東京支部)

8 イタイタイ病について考えよう～向井嘉之さんを囲んで～

富山市在住で、イタイタイ病を長年取材されてきた向井嘉之さん(イタイタイ病を語り継ぐ会代表)に講演いただきます。鉱山の廃棄物が土地や飲み水を汚染し、多くの人に過酷な痛みを与え続けたのがイタイタイ病問題です。著書の中で向井さんは、この問題の背景には武器の生産を最優先とする国策があったと言及されています。イタイタイ病のあゆみはコロナ禍の今にも通じる多くの教訓を伝えています。講演を聞き、理解を深めるとともに学校図書館としてできることを考えます。

(担当:岡山支部・富山)